

現地レポート Vol.5 (10月9日 (土))

ショパン国際ピアノコンクールの二次予選が始まり、初日は2名がヤマハCFXを使用して演奏しました。

二次予選進出者のトップバッターとして登場したのはArsenii Munさん（ロシア）。

マズルカ風ロンドでは出だしから気品のある音色で会場を魅了します。

華麗なる大円舞曲では粒立ちの良さとお洒落なルバートで華やかに、続くスケルツォ第1番では一転して空気を裂くような鋭い切れ味でシリアスに、ヤマハCFXから多彩な音色を引き出していきます。

ラストのアンダンテ・スピアナートと大ポロネーズを余韻たっぷりの歌いまわしで弾き終わると会場は大きな拍手で包まれました。

同じく昼の部に登場のGeorgijs Osokinsさん（ラトビア）は、

お馴染みになった低い特製ベンチ椅子に腰かけるといきなり目の覚めるような鋭い和音で一曲目の幻想ポロネーズを弾き始めます。

繊細なペダリングとタッチで浮遊感や勇ましさを変幻自在に表現しながら弾き終わると、あまり演奏機会の多くないポロネーズOp.71-2をくつきりと軽やかに、続く2曲のマズルカは郷愁を誘うように切ない表情で弾き進めます。

曲が終わったと同時に間髪入れずに英雄ポロネーズに突入すると

ラストまで彼独自の世界観を繰り広げたまま弾き切りました。

演奏後は「一次予選に比べて緊張せず、余裕を持って弾けました」と満足の表情でした。

この日の演奏はYoutubeのコンクール公式チャンネルでもアーカイブ動画で視聴できますので、是非ご覧ください。

10日にはいよいよ日本人期待の牛田智大さんが登場します。

出場者達の熱演に引き続きご注目下さい！

